

京丹波町町勢要覧

KYOTAMBA TOWN HANDBOOK



京丹波町町勢要覧

[発行] 令和7年3月 京丹波町 〒622-0292 京都府船井郡京丹波町蒲生蒲生野487番地1
[電話] 0771-82-0200(代表) [企画・編集] 企画情報課 [印刷] 株式会社オム
[ホームページアドレス] <https://www.town.kyotamba.kyoto.jp>



CONTENTS

- 04 **食** 実るまち京丹波
霧の恩恵
京丹波自慢の産品
- 08 **四季** 彩るまち京丹波
観光名所
- 12 **文化** 香るまち京丹波
文化財
伝統芸能
- 16 **【要覧】** 元気、希望、笑顔のあふれるまちへ
- 18 **健やかで幸せな食の町**
- 20 **教育と子育ての町**
- 22 **人のふれあいを感じる町**
- 24 **京丹波町のあゆみ（沿革）**
- 26 **京丹波MAP**

日本のふるさと
人のぬくもりと
ふれあいがあるまち

青い空、おいしい空気、きれいな水、おいしい食
京丹波町で暮らす一人ひとりが、ふれあいながら
笑顔で過ごせる、豊かな暮らしがあります

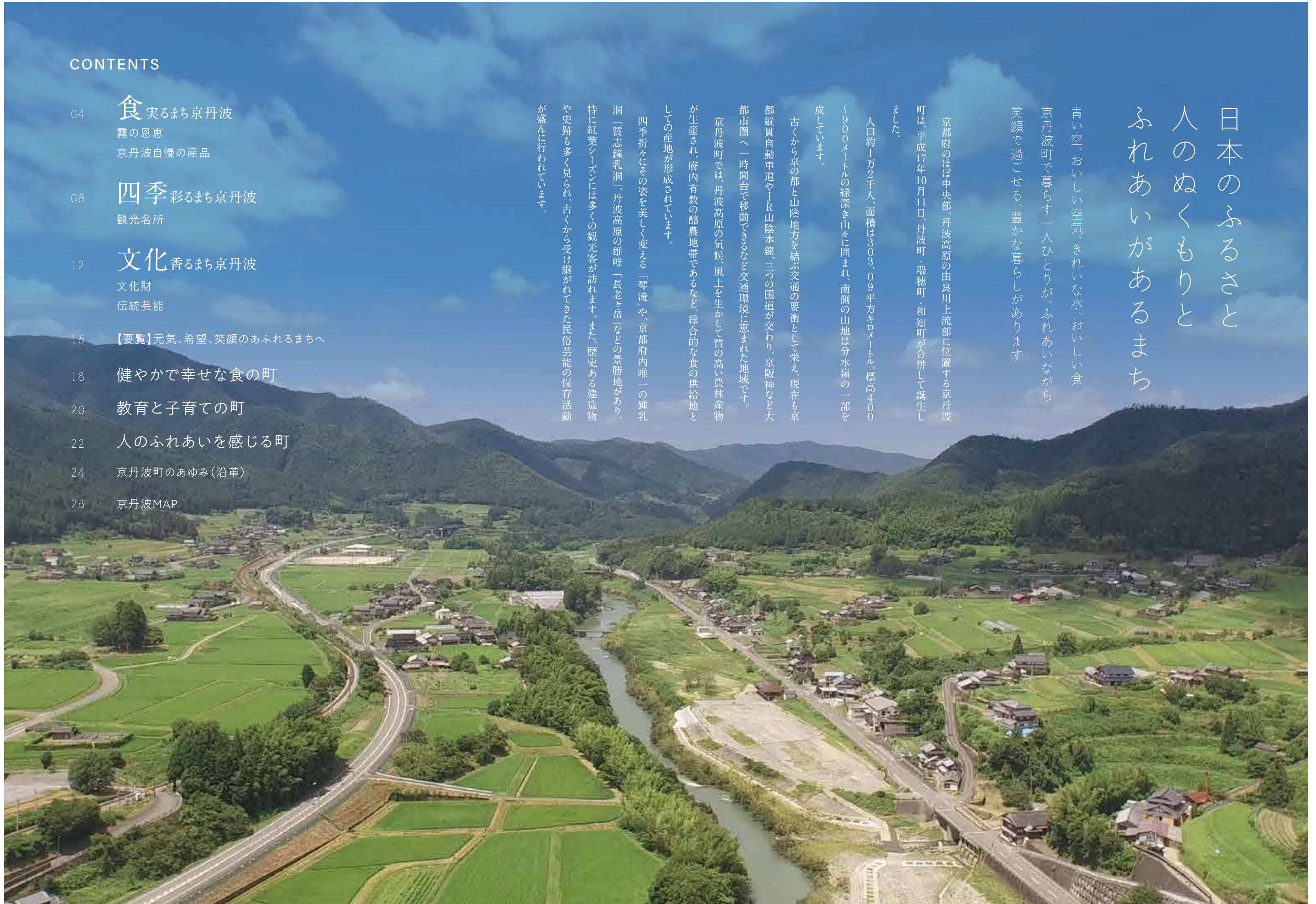
京都府のはぼ中央部、丹波高原の由良川上流部に位置する京丹波町は、平成17年10月11日、丹波町・瑞穂町・和知町が合併して誕生しました。

人口約1万2千人、面積は303.09平方キロメートル。標高400～900メートルの緑深き山々に囲まれ、南側の山地は分水嶺の一部を成しています。

古くから京の都と山陰地方を結ぶ交通の要衝として栄え、現在も京都縦貫自動車道やJR山陰本線、三つの国道が交わり、京阪神など大都市圏へ一時間台で移動できるなど交通環境に恵まれた地域です。

京丹波町では、丹波高原の気候、風土を生かして質の高い農林産物が生産され、府内有数の酪農地帯であるなど、総合的な食の供給地としての産地が形成されています。

四季折々にその姿を美しく変える「琴滝」や、京都府内唯一の鍾乳洞「質志鍾乳洞」、丹波高原の雄峰「長老ヶ岳」などの景勝地があり、特に紅葉シーズンには多くの観光客が訪れます。また、歴史ある建造物や史跡も多く見られ、古くから受け継がれてきた民俗芸能の保存活動が盛んに行われています。



霧が食材に与える影響とは

秋の終わりから春の訪れにかけて、京丹波町の朝は深い霧に包まれます。京丹波町は、内陸性気候と日本海式気候の特徴を持ち合わせていることから、昼夜の温度差が大きく、霧が発生しやすい特徴があります。

この気候は、京丹波の特産品である栗や黒大豆、大納言小豆などの生産に適しており、旨味をぎゅっと凝縮した、滋味深い食材を生み出すといわれています。

食実るまち 京丹波

霧の恩恵

しずかな朝。

草木の香りとともに

真っ白なベールが辺りを包む

大地を覆うその霧は

京丹波の自然に恵みを与え

実りを迎える作物に

豊かな味わいを与える

京丹波町食のキャラクター めしむ 味夢くん



京丹波町と同じ平成17年10月11日生まれの6歳（これ以上は年をとれません）。元気いっぱい、好奇心旺盛。京丹波町の食べ物が大好きな食のヒーロー。黒大豆の頭にマツタケ、紫ずきん、みず菜、京かんざしをつけ、くりの体を包むマントの止め具は小豆になっています。

道の駅

地域の文化や名所、特産品などの情報を発信し、地産地消を推進する場として利用されている道の駅。本町には4つの道の駅があり、それぞれが特色を活かした施設となっています。



道の駅 京丹波 味夢の里

京都縦貫自動車道の京丹波PAとなっており、地元で採れた新鮮野菜のほか府内の特産品が並び、多くの買い物客でにぎわっています。



〒622-0232
京丹波町曾根深シノ65番地1
TEL.0771-89-2310



道の駅 丹波マーケス

国道9号沿いにある道の駅です。専門店やフードコートをはじめ、京丹波町観光協会の案内所が設置されており、町の観光情報を幅広く発信しています。



〒622-0213
京丹波町須知色紙田3番地5
TEL.0771-82-3180



道の駅 瑞穂の里・さらびき

国道173号沿いにある道の駅です。そば好きにはたまらない一品「十割瑞穂そば」が味わえるほか、地元でとれた新鮮野菜が揃います。



〒622-0322
京丹波町大朴休石10番地1
TEL.0771-88-9350



道の駅 和(なごみ)

由良川沿いにある道の駅です。季節限定の商品が豊富で、訪れるたびに違った味わいを楽しめます。夏には鮎の塩焼きを堪能できる「鮎ガーデン」がオープンします。



〒629-1131
京丹波町坂原上モジリ11番地
TEL.0771-84-1008



黒大豆

霧や昼夜の気温差など、京丹波の気候が育む名産品の黒大豆。夏は枝豆、冬はおせち料理の一品に欠かせません。



ほうれん草



京丹波ラディッシュ



みず菜



伏見甘長とうがらし



丹波まつたけ



京丹波産米



京丹波産豚肉



京丹波産牛肉



大納言小豆

粒が大きく、とても艶が良いことが特徴。煮ても腹切れしにくく、味、風味ともに優れた逸品。和菓子や赤飯に最適です。



そば



地酒、ワイン

大地と職人が生みだす
京丹波自慢の産品

丹波高原の雄大な大地で培われた京丹波ブランド産品
それらを使い、丹精込めて生産された加工品や郷土料理
自然の恵みを食で感じる、こだわりの産品を紹介します



秋の味覚の代表 京丹波くり

大粒で香りが高く、甘さが引き立つ味わいで、ほくほくとした食感が楽しめる、全国に誇るまちなの特産物です。

京丹波くりの歴史は古く、朝廷への献上物として納められてきました。熱心な研究や栽培技術の向上、品質の選定などを経て今も多くの人々に愛されています。



ぼたん鍋

猪肉と京丹波で採れた野菜を煮込んだ京丹波の冬の名物。味噌仕立てのスープに、猪肉の旨みが溶け込む至福の一杯です。町内の料理旅館、民宿で味わえます。



和知川のアユ

清流で育ったアユは、美食家からも賞賛される由緒ある産物で、その姿は川の女王とも呼ばれるほど美しく、身肉がよく引き締まり、味も香りも抜群です。



大黒本しめじ

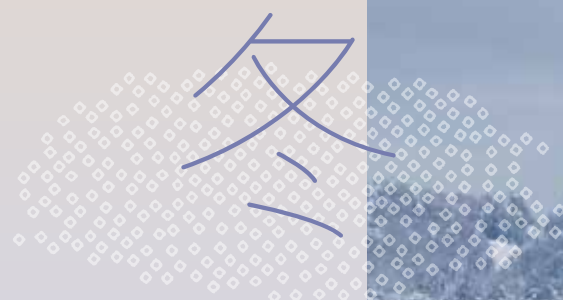
濃い茶色の傘に、徳利のようにふくらんだ白い軸。「本しめじ」はその姿から、七福神の大黒様のお腹に見立てて「大黒しめじ」と呼ばれ古くから珍重されています。



栗にまつたけ、黒大豆に小豆
ひと口頬張れば
自然の恵みが広がって
思わず笑顔で舌鼓

秋 autumn

winter



澄み渡る空の下
まちは白銀の静寂に包まれる
耳を澄ませば微かな息遣い
見えぬ大地は、
春を迎える準備を続ける



色付き始める草花に
生命の息吹を感じる春
桜の花が風に揺れ
新しい生活に胸が高まる

spring

summer



丹波の夜空を彩る打ち上げ花火
空高く広がる花々は
無数の色に輝いて
やがて、静かに消えてゆく

四季彩るまち

京丹波

春

夏



時間を忘れ、自然の中で深呼吸

四季折々に表情を変える風景と、歴史や文化が息づくまち。
雄大な自然が織りなす絶景、
そして心温まる人とのふれあいで、心ほどけるひとときを。



由良川の河岸段丘



琴滝

町指定文化財の名勝。高さ43mの巨大な一枚岩を伝う水の流れが13弦の琴糸のように美しいことからその名がつけました。周囲の景色に合わせて四季折々に彩りを変えます。



長老ヶ岳

標高917mの山頂から眺める展望は絶景で、青空、雲海、日の出などの景色は格別。快晴の日には日本海まで望めます。



京都府立丹波自然運動公園

多彩な施設を備えた公園。園内には、ジャンボすべり台やこどもの広場、バスターゴルフ場、プール、各種運動施設を有しており、1日中のびのび過ごすことができます。



質美笑楽講

閉校になった小学校をリノベーションして、レストランなどさまざまなお店が出店されています。昭和35年に建てられた木造校舎で、どこか懐かしい気持ちになること間違いなし。



グリーンランドみずほ

天然芝のグラウンド・ゴルフ場、体育館、テニスコート、ホッケー場、グラウンドなど好きなスポーツが楽しめます。イベントもできるテントタイプの屋内広場も好評です。



伝統芸能常設館

人形浄瑠璃や和知太鼓、小畑万歳や文七踊りなど、古くから地域に伝わるさまざまな伝統芸能の定期公演が開かれています。



みずほ人形の家みやび

ひな人形に五月人形、今では珍しい土人形や昔の名力士の人形など、大切に受け継がれてきた人形が並んでおり、その数は約2000体。毎年4月には、人形展を開催しています。



ウッディパルわち

和知川の清流沿いにある木の香り豊かな宿泊施設でキャンプ、川遊び、バーベキューなどができます。場内には桜や銀杏が並び、夏の日差しを和らげ、里山を彩ります。



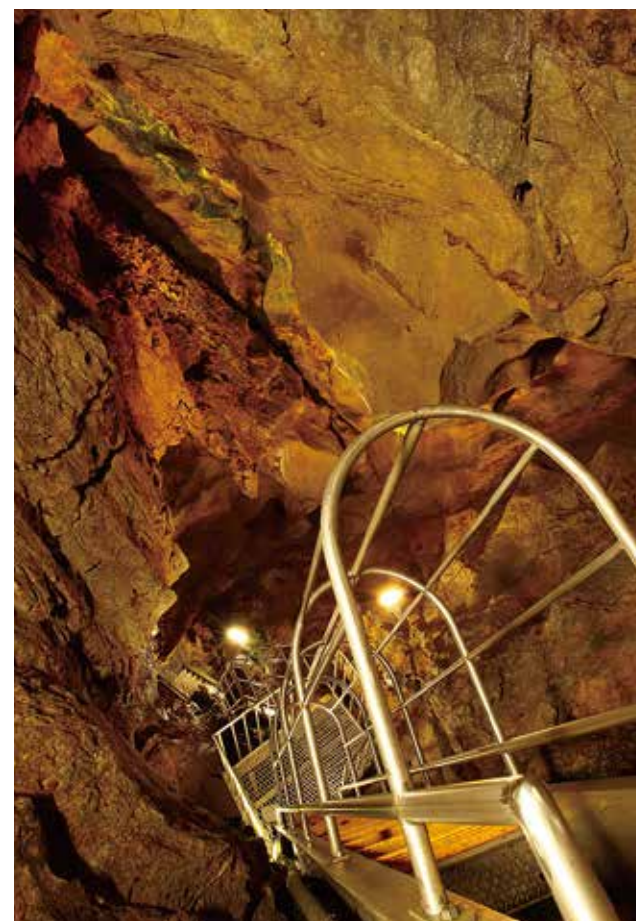
わち山野草の森

12haの園内には約900種の山野草や花木などが息づき、四季折々に美しい花・風景を満喫することができます。また、自然を体験できるイベント・教室も開かれています。



和知B&G海洋センター カヌー艇庫・カヌー クラブハウス

大自然のなか、一級河川「由良川」でカヌーが楽しめます。川の流れは穏やかなので、初心者の方でも安心です。山と川の魅力を満喫してみたい。※体験などは事前予約をお願いしています。



質志鍾乳洞公園

府内唯一の鍾乳洞。ひんやりとした冷たい空気が漂う中、ライトアップされた洞内は、神秘的な空間を醸し出します。ほぼ垂直の階段で、深さ25mの最下層まで下りることができます。





渡邊家住宅(下山)

建築年代は定かではありませんが、蔵区にある享保10年(1725)の祈禱札からこの頃に建てられたものより古いとされ、16世紀に遡るといわれています。茅葺、入母屋造り、平入りの民家で、京都府北部では最古に属し、昭和50年に国の重要文化財に指定されました。



九手神社(豊田)

長元2年(1029)、藤原定子が京都の松尾大社から勧請し、創建したと伝えられています。三間社流造り、栓皮葺きの本殿は、明応7年(1498)に再建、幾度の補修を経て、昭和9年に解体修理が行われて創建当時の姿となりました。本殿は大正10年に国の重要文化財に指定され、昭和61年にはさらに棟札2枚が追加指定されました。



塩谷古墳群(曾根)

12基の古墳から成る古墳群。5号墳を中心として取り囲むように11基の古墳が築かれており、5～6世紀にかけて継続的に築造されたと推測されています。ここから出土した2体の巫女埴輪は府の文化財に、また古墳群は町の文化財に指定されています。



猿田彦社

梅田春日神社(水原)

文永年中(1264～1275)に亀山院により大和国三笠山から勧請したと伝えられる本殿は、境内社猿田彦社本殿とともに、昭和58年に府の文化財に登録されました。猿田彦社は、「水原の庚申さん」として親しまれています。



能満神社(上野)

鎌倉時代に創建されてから三度の修理が行われ、現在の本殿は明和4年(1767)に建立されました。本殿の造りは極めて彫刻が多く、明るくてにぎやかなものとなっており、昭和58年に本殿が府の文化財に登録、平成12年には境内一帯を府文化財環境保全地区に指定されています。



明隆寺観音堂(下栗野)

室町時代後期の建立と見られ、堂宇は茅葺き(鉄板仮葺き)の寄棟造りで、年代のわかっている村堂(特定の宗派に属さず、僧侶が常住しない堂)としては全国的に見ても最も古いものの一つであり、平成7年に国の重要文化財に指定されました。



質美八幡宮(質美)

天暦年間(947～957)に社殿が建立されたと伝えられています。五間社、切妻造りの建物で、兵火などにより幾度か焼失していることから、現在の本殿は寛政8年(1796)に再建されたといわれています。平成5年に本殿と産子集会所が府の文化財に登録されるとともに、府文化財環境保全地区にも指定されました。



阿上三所神社(坂原)

阿上三所神社は和知地区内に4社(坂原、本庄、下栗野、細谷)あり、本庄阿上社を惣社として、坂原には観応元年(1350)に勧請されました。本殿は、柿葺きの三間社流造りで、装飾細部や妻飾りが繊細で現在も良い状態で保存されています。平成17年には、本殿が府文化財に指定、拝殿が府文化財に登録されました。



無動寺(栗野)

記録が失われているため詳細は不明ですが、建築年代は室町時代後期と伝えられています。観音堂は、鉄板葺きの入母屋造りで、平成20年に府の文化財に登録されました。丹波地方に残る最大級の平安彫刻として貴重な木造千手観音立像(像の高さ279.2cm)が堂内にあり、府の文化財に指定されています。



大福光寺(下山)

延暦年間(782～806)に建立され、その後、足利尊氏が現在の地に移したと伝えられています。本尊に毘沙門天が祀られていることから「蔵の毘沙門さん」として親しまれおり、明治37年に本堂と多宝塔が国の重要文化財に指定されました。ほかにも、国の重要文化財である方丈記写本、玉篇をはじめ、府や町指定文化財を数多く所蔵しています。



方丈記写本(国重要文化財)

文化香るまち 京丹波

先人から脈々と受け継がれてきた
伝統行事や伝統芸能
悠久の歴史の中で育まれてきた
史跡や建造物などの文化財は
“町の宝”として守り伝えられています



和知人形浄瑠璃

一人で人形を操る「一人遣い」が特徴で、喜怒哀楽の感情を語り分ける「太夫」、場面に合った多彩な音色を奏でる「三味線」、この三者が一体となって地元伝わる物語などを切々と綴っていきます。

三業一体の妙技が光る「和知人形浄瑠璃」。江戸時代末期に大迫村（現大迫区）で起こったと伝えられています。昭和60年に京都府無形民俗文化財に指定されました。



和知太鼓

力強いバチさばきと勇壮な響きで魅せる「和知太鼓」。源流となる広野太鼓の起こりは、お伽草子「酒吞童子」に関わりがあるといわれています。

平安時代中期、天皇の命を受けた源頼光が大江山の酒吞童子という鬼の討伐に向かう途中に激しい雷雨に見舞われ、広野区の藤森神社で雨宿りをして出陣する際、村人たちが頼光の武運長久を祈願して打ち鳴らした奉納太鼓が始まりと言い伝えられており、継承される中で和知太鼓となりました。

素朴な中にも人の心を鼓舞させる勇壮な響きを持つっており、昭和63年に町無形民俗文化財に指定されました。



小畑万歳

即興ネタで笑いを誘う「小畑万歳」。江戸時代、毎年正月から春先にかけて現在の兵庫県あたりから三人一座の万歳が訪れ、各戸を回って芸を披露していました。その衣装と鼓が小畑区に残っていたことから、昭和9年に地元有志が播磨流の万歳を披露したのが近代での上演の始まりと伝えられています。平成13年には、京都府無形民俗文化財に指定されました。



地域に息づく伝統の響き

脈々と受け継がれる
伝統の「技」と「心」

質美の曳山行事

樹齢1000年を経た杉並木が続く質美八幡宮の参道を、豪華絢爛な山鉦と、子ども太鼓打ちを前面に三味線、笛、鉦が入る囃子屋台がゆくりと時間をかけて巡行する「質美の曳山行事」。巡行途中には伝統の祭囃子が奏でられ、静寂の森の中に響く美しい音色が訪れた人々の祭り気分を盛り立てます。



丹波八坂太鼓

丹波地域に伝わる「丹波八坂太鼓」は、江戸時代に牛の疫病が流行り、病退散の祈りを込めて尾長野八坂神社の神前で打ち鳴らしたことが起源とされています。昭和46年に地元の人たちの手で「尾長野八坂太鼓」として復興し、保存会が結成され、その後「丹波八坂太鼓」と組織を変更し、現在は5月末に行われる御田祭や、7月の祇園祭での演奏、年一回の自主公演などで披露されています。



和知文七踊り

江戸時代中期から浄瑠璃くずしの音頭が愛好され、そのリズムにのって踊りが生まれたと伝えられており、人形浄瑠璃の代表的な頭「文七」が名称の由来ともいわれています。また、和知文七音頭の内容が浄瑠璃の物語をくずしたものであることから、和知人形浄瑠璃とは兄弟分のような関係にあります。昭和63年に町無形民俗文化財に指定されました。

このほかにも、「瑞穂音頭」や「丹波音頭」「瑞穂鼓太鼓」など、地域の人々に愛される伝統芸能が数多く息づいています。



葛城神社曳山巡行

口八田地域と上高岡地域の氏子が五穀豊穡への感謝と豊作を祈願して行う葛城神社曳山巡行。八朔祭として旧暦の8月1日に行われていましたが、現在は10月中旬に開催されています。昼間は地域内を練り歩き、日暮れごろに葛城神社に集って境内を舞台に荒々しい姿を見せます。



要覧

元気、希望、笑顔の あふれるまちへ



まちを歩けば、豊かな自然が織りなす季節ごとの美しい景色に癒される京丹波町です。特に、春や秋から冬にかけては、幻想的な丹波霧が立ち込め、豊かな食を育みます。

「食のまち 京丹波」

京丹波くりをはじめ、黒大豆や大納言小豆、京野菜や和知川のアユ、季節ごとに、滋味深い「食」の宝庫です。

は、今も昔も、交通の要衝であり、歴史と文化が根付いています。

京丹波町では、「健やかで幸せな食の町」、「教育と子育ての町」、「人のふれあいを感じる町」の3つの柱を軸に、まちづくりを進めています。

京丹波町で生まれ育ち、暮らす町民や、まちに訪れ、関りを持つ人々が、健やかで幸せを感じながら、元気で希望を持ち続け、笑顔あふれるまちへ……。

未来へと続く、京丹波町の魅力をこの「町勢要覧」に込めました。

京丹波町長 畠中 源一



京丹波町病院の充実

国保京丹波町病院は、町民、一人ひとりが、地域で末永く、その人らしく生きられるよう、地域包括ケアシステムにいち早く取り組み、「私たちの町の私たちの病院」を目指しています。

地域密着型の病院として、京都府や京都府立医科大学をはじめ南丹医療圏のさまざまな機関と連携を強め、町民の命、健康を守る「かかりつけ病院」としてまちづくりの一翼を担っています。



健康寿命を延ばす取組

町民の皆さんの健康を保つために健(検)診を進め、特定健康診断、がん検診を無料で受けることができます。さらに、日曜健診を実施し、若年層や勤労者が受診しやすい体制づくりに努めています。さらに、健診結果をもとに、保健指導や健康教育を行い、病気の早期発見・早期治療などの予防医療や認知症予防に力を入れています。



食の町京丹波

京丹波町の最大の魅力は、「食」です。京丹波くりをはじめ、黒大豆や大納言小豆、京野菜や和知川のアユなど、「食」の宝庫です。

「食」を核に、農業、観光、情報、産業が連携を図り、まちの魅力を高め、活力を生み出すため、食の集積地、フードバレーを目指しています。



京丹波栗リファインプロジェクト

名産である「京丹波くり」の生産量拡大を進める中で、ブランド戦略を推進、強化するための体制づくりを進めています。丹波くり振興計画を策定し、優れた栽培技術を次世代に継承するため、技術指導ができる担い手を育成しています。



健幸・食

健やかで幸せな
食の町

人生100年時代 自然豊かな京丹波町で、生まれ育ち、暮らし、そして、人生を終えるまで……。おいしい食に包まれて、だれもが生きがいと誇りを持ち、生涯を通じて健やかで幸せに暮らすことができる「健幸」のまちづくりを進めています。



ウェルネス京丹波ポイント事業

歩いて、健やかで幸せな暮らしを送ろうをテーマに、毎日の歩数や町主催事業に参加すると、ポイントが貯まるウェルネス京丹波ポイント事業を進めています。

ポイントが貯まると、町内の飲食店で使えるチケットが当たります。



母子保健事業

京丹波町で生まれ、すくすくと育つ子どもたち。まちの宝である子どもの健康を守るため、各年齢の成長に合わせた乳幼児健診や相談事業、保健・栄養指導を行っています。

さらに、妊婦を対象に、所得に関わらず初回産科受診料の費用助成や産後ケア事業の利用者負担の軽減を実施しています。





京丹波グリーンスクール

小中学生が、少子高齢化、人口減少など、町の課題に対して、情報収集、整理分析して、主体的に考え、解決策を発表する、探求的な学びを展開しています。須知高校や大学、企業と連携して、食、防災、森林林業などについて考えたほか、京丹波町こども議会を開催して、まちづくりへの提案を行っています。京丹波町の特色を活かしながら子どもの学びを深める教育方針である「学びを育む京丹波町メソッド」により、確かな学力の定着と向上を目指しています。



京都府立須知高等学校の活性化

京丹波町には三大農牧学校の発祥の地である須知高校があります。明治時代、最先端の近代農業教育が繰り広げられた歴史ある高校です。広大な実習農場があり、食品科学科では、校内で農作物を栽培し、技術を学び、食品加工を行っています。町内の小中学校と連携しながら、学びあう環境づくりに努めています。



京都トレーニングセンターとの連携

丹波自然運動公園に、ジュニアアスリートの強化拠点として、京都トレーニングセンターがあります。最先端のトレーニング器具がそろい、宿泊施設を備え、小中学生の身体能力・競技力向上やトップアスリートの育成を目指して、最先端の指導を受けることができます。ハイパフォーマンススポーツセンターの指定を受け、世界で活躍するジュニアアスリートの育成を促進しています。

教育 子育て

教育と 子育ての町

「まちづくりはひとづくり・ひとづくりはまちづくり」。まちの未来を担う子どもたちが、自然豊かな環境で、家族や地域の皆さんの深い愛情に包まれ、健やかにのびのびと育つ町へ。
ともに学び町への誇りを育み京丹波町ならではの教育環境の充実に力を入れています。



京丹波町民大学～まちへの誇り醸成～

京丹波町は、歴史、文化を大切に守り育て、まちへの愛情、誇りを醸成するため、京丹波町民大学を開講しています。約40の山城の中には、明智光秀との関りが深いものもあり、歴史の舞台でした。その山城の魅力を再発見し、ガイドツアーや公開講座を行っています。さらに、学芸員養成講座を行い、地域の歴史を掘り起こし、その価値を深め、町民一人ひとりが、地域の魅力を伝えていく役割を担う取組を進めています。



京丹波町図書館

令和5年4月に京丹波町図書館が開館しました。町内の図書室が再編され、工夫を凝らした図書イベントが開催されるようになったほか、図書検索が充実しています。

また、「どこでも図書館構想」をかね、移動図書館車「めばえ号」に500冊の本を積んで町内を回るサービスがあり、本で心が笑顔になるまちづくりに努めています。



子育て支援の充実

安心して産み育てられるよう、出生から18歳までの医療費を無料化し、妊産婦健診事業や不妊治療の補助などを行っています。令和4年度には、町立認定こども園が開園し、さらなる教育、保育環境の充実を図るため、就学前環境を大切にしています。

入学、卒業などの節目節目に「お祝い金」を贈り、切れ目のない子育て支援が充実しています。

令和6年4月には、こども家庭センターが設置され、妊娠した時期から子育ての時期にわたる母子保健や育児に関する相談など発達段階に合わせた支援を行っています。





災害に強いまちへ

地球温暖化などの影響もあり、これまで経験したことのない局地的集中豪雨や、積雪による倒木など、近年の異常気象がもたらすまちへの被害は甚大なものとなりました。災害に強いまちづくりの中心的な役割を担う消防団の活性化や設備の充実などの強化を図るとともに、各区、関係団体などとの連携を図り、自助、共助、公助の力を高めています。



京丹波イノベーションラボ

京丹波町の資源や資産を活用してタウンプロモーションを行う組織です。町民の方や役場職員で構成されており、グリーングリーンマーケットやクリスマスマーケットを実施しています。

開催されたイベントは町民の方だけではなく、町外から訪れた人も楽しめ、京丹波町の魅力を味わいました。交流人口の増加や移住定住への入り口となっています。

ふるさと納税の推進

京丹波町では、ふるさと納税を推進しており、令和元年以降の5年間で、ふるさと納税の寄付額が15倍以上になりました。京丹波町のより良いまちづくりへ向けて、京丹波町の活性化へ向けた投資に活用させていただいています。



友好町との交流

京丹波町の交流事業では、福島県双葉町、北海道下川町と友好町の締結をしています。

平成23年3月11日に発生した、東日本大震災から10年以上が経過し、ようやく双葉町に役場機能がもどりました。京丹波町長が新庁舎の開庁式に参加しました。また、両町の中高生がお互いの町を訪問し、文化体験をするなど、心の交流を通じて、絆を深めています。



京丹波町プロモーション戦略

住み続けられる京丹波町であるために、「プロモーション戦略」を策定しました。京丹波町の魅力を、国内問わず、全世界へ広く伝え、共感する人を増やし、町へのファンを増やす取組を積極的に進めています。

京丹波町が誇る素晴らしい5つの価値を明らかにして、その価値を高める取組を進めています。

「京丹波町の5つの価値」

1. 自然との共生
2. ウェルビーイング
3. 人と地域のつながり
4. オープンマインド
5. チャレンジング

海外の大学との連携も進め、京丹波町に関り、共鳴し、まちの活性化へ向けて『ともに』取り組む人を増やす仕組みづくりをしています。

かけ言葉は、「ゴーグリーングリーン」。

豊かな自然の恵みに包まれながら、人と人とのふれあいを大切に、心豊かに暮らすことができる町を目指しています。



交通対策

高齢化が進み、運転免許証の自主返納が進むなか、求められる移動手段のニーズが大きく変化してきました。新モビリティ事業として「予約型乗合タクシー」の実証実験を令和6年4月にスタートし、新たな交通手段を取り入れました。和知地区を起点に、1回500円で利用ができ、地域全体の活性化に期待が寄せられています。



ふれあい

人のふれあいを
感じる町

子どもから高齢者、障がいのある方々など、みんなが安心して暮らせる京丹波町へ。
一人ひとりが支えあい、励ましあい、笑顔あふれるまちづくりを進めます。

町の花 つつじ



町の木 イチョウ



町の鳥 うぐいす



町内に多く生息し、春を告げる「ホーホケキョ」のさえずりが多くの人々に親しまれていることから、京丹波町がいつまでも自然豊かな町であることの象徴として、平成23年10月11日に制定。



A group of students and teachers are performing on a stage. The students are wearing black and white uniforms. The teachers are wearing black suits. They are standing in a line, holding hands, and singing. The stage is decorated with colorful balloons and streamers. The background is a red curtain. The audience is visible in the foreground, sitting in rows of chairs.

2005年 (平成17年)	10月	丹波町・瑞穂町・和知町が合併し、京丹波町が誕生（11日）
2006年 (平成18年)	2月	京丹波町合併記念式典を開催（25日）
	5月	町営バスの運行を開始（1日）
		福島県双葉町と友好町提携を交わす（11日）
2007年 (平成19年)	2月	オーストラリア・ホークスベリー市と姉妹都市協定を締結（9日）
	7月	長瀬大橋開通式およびアグリパークわちの開園記念式典を開催（14日）
	10月	総合計画を策定（11日）
2008年 (平成20年)	3月	住民自治組織によるまちづくり基本指針を策定（14日）
	8月	PCB廃棄物などの持ち込み問題が発生し、持ち込みを阻止するために、条例制定や決起集会、監視活動などが行われる。
	9月	京都縦貫自動車道・丹波綾部道路（綾部安国寺IC―京丹波わちIC）の開通を記念し、イベント（7日）と開通式（13日）が開催される。
2009年 (平成21年)	4月	国民健康保険瑞穂病院が国保京丹波町病院に改称（1日）
	5月	和知診療所内に町介護療養型老人保健施設を開所（1日）
		国道27号下山バイパスの開通式典を開催（24日）
2010年 (平成22年)	4月	町営バスの土曜日運行を開始（1日）
	8月	国民文化祭「事業」魅せる・人形芝居フェスティバル」を開催（1日）
		わちふるさと祭り」で鉄道開通100周年記念式典が開催される（22日）
	11月	町が主催に加わり「京都市丹波ロードレース」を開催（3日）
2011年 (平成23年)	3月	桧山小・明俊小（26日）、三ノ宮小・質美小（27日）が開校記念式典を開催
	4月	全町でケーブルテレビの運用を開始（1日）
		瑞穂小学校で開校式（6日）、みずほ保育所で開所式（7日）を開催
	10月	「つつじ」「イチヨウ」「うぐいす」を町のシンボルに制定（11日）
	11月	京都府で国民文化祭が行われ、本町では「魅せる・人形芝居フェスティバル」と「食の祭典」を開催（6日）
2012年 (平成24年)	4月	西日本初の林業専門の大学校、京都府立林業大学校が開校（9日）
	7月	須知川水辺公園に続く町内2カ所目の都市公園「須知公園」が開園（31日）
	11月	原子力災害を想定した初の住民避難訓練を実施（4日）
2013年 (平成25年)	3月	北海道下川町と友好交流協定を締結（4日）
		建設開始から約20年を要した畑川ダムが完成し、竣工式を開催（16日）
	4月	瑞穂学校給食センターが開所し、町内全ての小・中学校で給食開始（11日）
2014年 (平成26年)	4月	京丹波町教育振興基本計画を策定（4日）
	10月	29年の歳月をかけ丹波広域基幹林道が開通（11日）
2015年 (平成27年)	7月	町内に4つめの道の駅「京丹波味夢の里」が完成し、記念式典を開催（12日）
	10月	京都縦貫自動車道が全線開通（18日）
		京丹波町合併10周年記念式典を開催（11日）
2016年 (平成28年)	1月	町中央公民館に木育ひろばが完成し、開設式を開催（18日）
	3月	情報交換や交流などを目的に「京丹波町住民自治組織連絡協議会」を設立
		京丹波町を含む京都市、綾部市、南丹市にまたがる広大な区域が、国定公園「京都丹波高原国定公園」に指定される（25日）
2017年 (平成29年)	3月	第2次京丹波町総合計画を策定（22日）
	4月	地域熱供給施設と（特養）長老苑の入浴施設が完成し、竣工式を開催（28日）
	10月	旧和知第二小学校跡に屋内多目的広場「わち夢広場」がオープン（14日）
		京都府立須知高等学校が創立70周年の記念式典を開催（9日）
2018年 (平成30年)	5月	丹のまち広場うるおい館に京丹波町ロケーションオフィスの事務所が開所（19日）
	10月	道の駅「京丹波味夢の里」
		来場者数1千人達成の記念式典を開催（21日）
2019年 (平成31年 令和元年)	2月	姉妹都市オーストラリア・ホークスベリー市との交流
	3月	30周年記念イベントを開催（2日）
		常勤医師の確保を目指した医師住宅が完成（20日）
2020年 (令和2年)	10月	フェアフィールド・バイ・マリOTT・京都京丹波開業（8日）
2021年 (令和3年)	4月	京丹波あんしんアプリの運用スタート（1日）
	9月	ケーブルテレビが民営化（1日）
	11月	京丹波町役場新庁舎が開庁（1日）
		島中源一町長が就任（14日当選）
2022年 (令和4年)	4月	幼保連携型認定こども園開設（1日）
	11月	ウェルネス京丹波ポイント事業開始
		証明書のコンビニ交付サービスを開始（1日）
2023年 (令和5年)	3月	瑞穂支所が瑞穂保健福祉センター内へ移転（27日）
	4月	京丹波町図書館開館（1日）



幼保連携型認定こども園開設
(2022年4月1日)

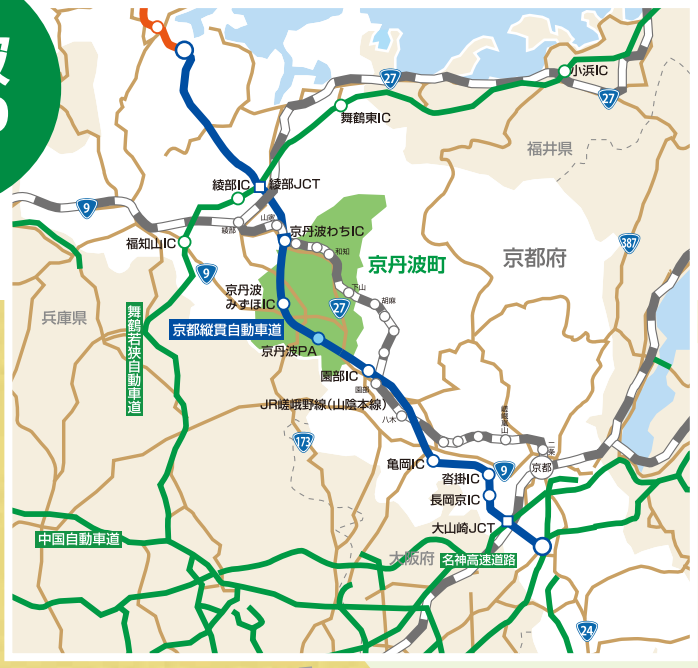


京丹波町役場新庁舎が開庁
(2021年11月1日)



京丹波町役場新庁舎が開庁
(2021年11月1日)

京丹波MAP



映画のロケ地

京丹波町では、まちの風景や建物などを映画やテレビ番組などの撮影場所として提供し、映画ファンなどの観光客誘致につなげる京丹波町ロケ誘致事業を推進しています。



このマークがあるところで、ロケが行われました。



京丹波オープンセットロケ施設
東京ドームに匹敵する広大な土地を有しています。また、撮影室や控え室などを備えた京丹波ロケスタジオを併設しています。



旧質美保育所
映画「あの日のオルガン」の撮影が行われました。

京丹波町役場

令和3年11月にリニューアルした役場本庁舎。町内の豊富な森林資源を96%活用した地上2階建ての木造庁舎です。気軽に立ち寄り、いこいの場として過ごすことのできる交流ラウンジ「こだち」を併設。図書館やカフェがあり、多くの方に幅広く利用いただいています。



和知支所



瑞穂支所

Eventカレンダー

- | 12月 | 11月 | 10月 | 8月 | 6月 | 5月 | 4月 |
|------------|--------------|----------------|----------------|--------------|---------|------------|
| クリスマスマーケット | 京都丹波ロードレース大会 | 丹波黒枝豆の直売所が多数出展 | 京たんば花火大会 | 鮎漁の解禁 | 質美の曳山行事 | ふるさと人形展 |
| | | 京丹波マルシェ | わちふるさと祭り | 黒豆ロックフェスティバル | 御田祭 | 質志鐘乳洞公園まつり |
| | | | みずほ夕涼み大会 | 丹波ちびっこまつり | | |
| | | | バチ供養 | | | |
| | | | 質美の曳山行事 | | | |
| | | | 葛城神社曳山巡行 | | | |
| | | | 丹波黒枝豆の直売所が多数出展 | | | |
| | | | | | | |



京都丹波ロードレース大会



京丹波マルシェ



京たんば花火大会



黒豆ロック



御田祭